



JR 東労組水戸

JR 東労組 水戸地方本部
発行責任者 村田 祐一
編 集 情宣部担当

2023.7.13

No.2

第37回定期大会宣言発出!

大会宣言 ~~(案)~~

JR 東労組水戸地本は7月13日、ザ・ヒロサワ・シティ会館において「第37回定期大会」を開催し、2023年度運動方針を満場一致で確認した。

水戸地本はこの1年間、「地本再建から1年!さらなる組合員との総対話を通じて、安全で働きやすい職場を元気よくつくり出そう!」のスローガンのもと、職場の組合員との信頼関係や絆をさらに強くし、全組合員との連携のもと取り組みを進めてきた。

その成果として、会社からの施策提案に対して、この間築き上げてきた組合員との総対話で、施策内容や職場環境等の問題を要求に高め、解決するための団体交渉を実現してきた。また、共済活動をはじめとする世話役活動を行うと共に、退職者激励会、レクリエーションを開催し、組合員との信頼関係をさらに強めてきた。

このような取り組みの積み重ねにより、バス土浦分会が再建され、分会集会や懇親会が開催されるようになった。原ノ町支部においても、ダイヤ改正での要求実現、統括センター発足の提案に対し、原ノ町やいわきエリアで働く組合員の要求を集約し、団体交渉に反映させてきた。さらに再建を果たした水戸地本OB会の先輩たちも、レクリエーションや退職者激励会に積極的に参加し、地本活動を支えていただいている。

私たちの組織拡大の取り組みでは、様々な取り組みを未加入者とも一緒に担い、関わりを継続的に粘り強く行ってきた。その結果、組織拡大を実現することができた。そして今大会で、再加入した組合員から「若手に組合の必要性を広め、組織拡大を実現したい」と特別発言を受けることができた。

一方で、23春闘や期末手当の会社回答は、黒字基調に向けて努力してきた私たちの労苦に報いない低額回答であった。また会社は、組織再編や駅体制等の見直し、中編成ワンマン運転の拡大等、職場環境を急激に変化させる施策を矢継ぎ早に実施してきた。さらに、バス職場における「事故・阻害等に関するポイント管理の導入」、国府津運輸区や宇都宮運輸区で行われた懲罰的日勤教育、豊田運輸区における心身異常を再燃させる強制転勤等、安全が担保され、安心して働くことができる職場環境が一方的に破壊されている。水戸地本は、このような経営側の姿勢に対し、よりよい職場環境を実現するために、あらゆる努力を惜しまず、組合員との連携を強化していく。そして、今大会で確認した「組合員との総対話で要求をつくり、職場の諸問題を解決するため」に、地本執行部は組合員と共に、一歩前へ踏み出し、安全で働きやすい職場を創りだしていく決意である。

水戸地本は、これらの取り組みを通じて、若き仲間と共に、組織強化・拡大を実現していく。そしてJR 東労組の展望を切り開き、平和と安全が保障された、安心して暮らせる社会を、全組合員で実現しよう!

以上、宣言する。

2023年7月13日
東日本旅客鉄道労働組合
水戸地方本部
第37回定期大会

全組合員で読み合わせし、安全で働きがいのある職場をつくり出そう!